

2020年  
3月16日号 No.1560



# 週刊 教育資料

EDUCATIONAL PUBLIC OPINION <http://www.kyoiku-shiryō.co.jp>

## 潮流 目と身体と脳をつなぐ トレーニングをⓉ

一般社団法人日本ビジョントレーニング普及協会代表理事 久保田実希



資料

## 臨時休業期間における学習支援コンテンツ ポータルサイト(子供の学び応援サイト)

文部科学省

### CONTENTS

#### ▶ 2 潮流

##### 目と身体と脳をつなぐトレーニングをⓉ

久保田実希(一般社団法人日本ビジョントレーニング普及協会代表理事)

#### ▶ 5 解説・ニュースの焦点

○臨時休業実施自治体は小98.6%、中98.7%、  
高97.9%

編集部

○一斉臨時休業の「Q&A」で教職員の服務  
関係等を追加

編集部

#### ▶ 8 経営改善につながるプログラミング教育

##### AI時代を生き抜く力を育もう

森田泰司(茨城県古河市立総和南中学校校長)

#### ▶ 10 特別企画

人口減社会に対応した学校づくりは?

#### ▶ 12 校長講話

新学習指導要領全面实施を控えて①

—生きる力をはぐくむ学習指導要領—

岩瀬正司((公財)全国修学旅行研究協会理事長)

#### ▶ 14 合理的配慮—現場の対応事例

障害のある学生の支援—東北大学のガイド  
ブックからⓉ

編集部

#### ▶ 16 特別資料

新型コロナウイルス感染症防止のための小学校等  
の臨時休業に関連した放課後児童クラブ等の活用  
による子どもの居場所の確保について(依頼)

#### ▶ 19 資料

臨時休業期間における学習支援コンテンツポ  
ータルサイト(子供の学び応援サイト)

文部科学省

#### ▶ 32 月間教育ファイル

#### ▶ 35 教育の危機管理

正答を求められる子どもたち

石橋昌雄(立正大学社会福祉学部特任准教授、前公立小学校校長)

#### ▶ 38 向山行雄のドキュメント『学校経営』 次年度人事と今どきの初任者

向山行雄(敬愛大学国際学部教授・教職センター長、全国連合小学校長会顧問)

#### ▶ 40 玉置崇の新学習指導要領 現場での生かし方 学習評価について深める(その3)

「思考・判断・表現」の評価の在り方

玉置 崇(岐阜聖徳学園大学教育学部教授)

#### ▶ 42 変わる教育委員会

学習者本位の教育改革①

竹内延彦(長野県・池田町教育委員会教育長)

#### ▶ 43 教育問題法律相談

音楽教室と著作権についての判決

澤田 稔(弁護士)

#### ▶ 44 通信・議会質疑

学びの改善⑥

#### ▶ 46 変わる! 英語教育

独自カリキュラムと目標等を設定—長野県  
小諸市Ⓣ

編集部

#### ▶ 48 BOOK

『「差別はいけない」とみんないうけれど。』  
『精神科医が教える聴く技術』

#### ▶ 49 自著を語る

『介護職がいなくなる』

結城康博(淑徳大学教授)

#### ▶ 50 元中学校長 浅田局長の文科省日誌

感染拡大防止のため小中高特の一斉臨時休業を要請  
全国的なスポーツ・文化イベント等も延期・縮小等

浅田和伸(文部科学省総合教育政策局長)

#### ▶ 52 マイオピニオン

学校とは、多様な個性が生身で触れ合い学ぶ場

小松郁夫(国立教育政策研究所名誉所員)



一般社団法人日本ビジョントレーニング  
普及協会代表理事  
久保田実希さんくぼたみきに聞く①

# 潮流

## 目と身体と脳をつなぐ トレーニングを

子どもの視る力を育てて  
学習力・運動能力を引き出すために  
すべての子どもにビジョントレーニングを  
届けられる環境が求められている。

### トレーニングの基本的な流れ

ビジョントレーニングを基本にメンタルトレーニング、体幹を整えるコンディショニングトレーニング、感覚統合トレーニング、認知トレーニング、キャリア開発支援などを取り入れて子どもの心と身体の発達を促し学習力と運動力の土台を育て「生きる力に身をつける」ことを目的とした独自の「BestVision(ベすとびじょん)」での基本的な流れは①目のカウンセリングとチェック②目を中心にしたトレーニング③目と身体をつなぐトレーニング④目と手と脳(思考)をつなぐトレーニング、となる。このうち、目を中心にしたトレーニングでは、眼のストレッチをはじめ眼球を動かすトレーニングなどを行う。眼がスムーズに動くことで板書など「読む力」の育成につながり、認知力や理解力が育つ。目と身体をつなぐトレーニングでは、細かい手の動きを鍛えるトレーニングで、身体を動かしながら目と脳と身体の連携をスムーズにする。目と手と脳(思考)をつなぐトレーニングでは、オリジナルの教材やプリントを使って、微細運動(字を書くときに必要な感覚)などをトレーニングし、集中力や注意力、イメージ力などを育てるといふ。

また、高学年クラスではこれからの思春期をスムーズに乗り越えるためにメンタルを整える捉え方のトレーニングや、親密なコミュニケーションをはかり個々の成長の確認とキャリア開発に向けたカウンセリングも行われる。

久保田 ビジョントレーニングの効果が早く現れる子どももいれば、時間がかかる場合もあります。特に発達障害と診断されている子どもは、目と身体と脳のつながりがゆっくりですので、マンツーマンで、丁寧に時間をかけて対応していくようにしています。学習塾に通わせたい希望があるが、その土台ができていない場合は、保護者にも説明して週に1回程度、1年くらいかけて学習の土台づくりをするようにしています。

ビジョントレーニングは、子どもだけではなく大人も含めた幅広い年齢層に有効なトレーニングの一つだが、子どもの場合、▽よく転ぶ、ぶつかる▽後ろ歩きが苦手▽球技が苦手▽スキップができない▽集中力がない▽キレやすい▽イライラしがち▽手先が不器用▽運動音痴などの傾向がある子どもには特に効果があるという。

また、スタジオでの活動では、トレーニングというより、遊びの感覚で楽しく目や

手足を動かす内容で構成されている。4人1組で活動するケースもあれば、発達障害や集団での活動が苦手な子どもに対してマンツーマンで指導することもある。この場合、子どもの状況に合わせて、トレーニングの時間も調整するようにしている。

久保田 昨年の5月からスタジオでの受け入れの活動をスタートして、まずは小学生段階からのビジョントレーニングを始めたのですが、実施してみると、もっと早期にトレーニングを始めた方が効果も大きいことを実感しました。このため、今春からは未就学児、保育園でいえば年中さんに当たる4歳児程度の幼児が参加できるコースを本格的にスタートさせる予定です。

## 私立幼稚園などにも専門家を派遣

大阪府の大東市にあるスタジオに通ってもらう場合、目の動きの動画を撮影して、視覚認知も含めて現状を把握し、そのスクリーニングの結果を踏まえて課題を見つけ、その子どもにあったプログラムを設定する。参加の仕方もグループと個人のどちらが効果的かを検討する。グループ(4人)の場合は約50分、週に1回のトレーニングを基本としている。マンツーマンの場合は

月2回、80〜120分の間でその子どもに合わせてトレーニング時間を決めている。

このほか、同協会では、私立の保育園と契約をした上で、4園で保育の内容の一部にビジョントレーニングを保育園の教員が指導し、協会からは専門家を派遣して月に1度、指導している。また、最近では、放課後デイサービスの事業者の方がビジョントレーニングを活動に取り入れたいと学びに来るケースもあったという。今後、こうした流れが広がり、放課後児童クラブや学校現場など、行政が参加する形でビジョントレーニングの手法が取り入れられていくことが期待されている。

久保田 現在、運営しているスタジオには幼児から4歳代までの幅広い利用者がいるのですが、発達障害とまでは診断されていないけれども視覚不全と聴覚過敏の傾向がある中学生の子どももいます。このような子どもに対しては本当はマンツーマンでのレッスンが好ましいのですが、費用の面などでマンツーマンですと高くなってしまつので、行政などからの公的な補助など支援の仕組みがあればと感じることがあります。

同協会のホームページでは、ビジョントレーニングの事例やその効果、トレーニン

グに活用できる用具などの紹介も行っている。例えば、大阪府の小学校で、毎日3分、1年間のビジョントレーニングを含めた教育活動によって、児童の視覚機能に改善が見られたこと、特に輻輳距離（より目）と図形模写に関して大きな変化が見られ、図形模写の改善傾向が2年生・3年生で大きいことなどの事例が紹介されている。

また、同協会のスタジオでも活用しているが、一本歯下駄とトランポリンを使って体幹やバランス感覚を鍛えるなどの事例もある。これらの用具は子どもだけでなく、プロのアスリートやオリンピック選手なども活用しているという。

久保田 私たちは民間の団体ではありませんが、現在の活動を通して、保護者と地域、行政が一体となって子どもたちの発達を保障していくことで、子どもたちの未来を開いていくことにつながればとの思いでいます。ですから、教育委員会などを含めて行政からの講演などの依頼があれば、できるだけ協力をするようにしています。

## 資格認定講座を開催

同協会では、ビジョントレーニングの基礎を学びながら、「べすとびじょん認定ト

レーナー」を目指す養成講座などにも力を入れてきた。すべての子どもにもビジョントレーニングができる社会の実現のために、保護者や教師を含む指導者、さらにはビジョントレーナーを職業とできるように、レベルに応じた資格認定制度を作ってきた。

親子で一緒に遊びながら子どもの成長を育むことをねらいとした「ビジョントレーニング体験」、その次のステップとしてビジョントレーニングの仕組みを知り、その必要性を学ぶことをねらった「ビジョントレーナー認定2級講座」、さらには2級講座を開催するスキルを身に付けることをねらった「ビジョントレーナー認定1級講座」、そして「べすとびじょんメソッド」を教えるスキル獲得を目的とした「ビジョントレーナー認定マスター講座」がある。

こうした養成講座により、ビジョントレーニングの考え方やスキルを持った人が地域社会の中で増えることで、学校や家庭でビジョントレーニングを日常的なものにしていくことにつながる。また、困り感のある子どもを1人でも少なくして、不登校や引きこもりなどの減少につながることを期待しているという。団体の名称を「普及協会」としたのも、そうした思いがあったことだ。そのために、学生や学校の先生た

ちが受講しやすいようにアカデミック割引を設定したり、1人親家庭のための割引なども工夫してきたという。

久保田 近年、小・中学校での子どもの学力低下や運動能力の低下が問題視されています。最近では、目と脳と身体をよりよくつなぐビジョントレーニングのほかに、認知機能を高めるための「コグトレ」の取り組みが広がってきました。

大東市でも昨年、小・中学校の先生方の合同研修会で約80人の先生方に2時間程度、ビジョントレーニングの基本について講演をさせていただいたのですが、来年度から小学校の5・6年生を対象に学校でビジョントレーニングを取り入れた教育活動を進めていくと聞いています。

まずは、ホームルームの5分程度でもよいので、ビジョントレーニングを学級の中で取り入れていただきたいと思います。歌に合わせて目を動かし、脳が活性化して認知能力が高まるようなプログラムや教材も用意していますので、学校で活用していただくことで、学習面などで困り感を持っている子どもが少しでも少なくなればと願っています。

一般社団法人日本ビジョントレーニング普及協会 || <https://ivision.jp/>